



# 2014年3月期 第2四半期決算説明会



# ONOKEN

2013年12月2日

## 小野建株式会社



## CONTENTS



- I. 2014年3月期 第2四半期決算の総括
- II. 品種別販売状況
- III. 建機商品・工事販売金額の推移、利益率の推移
- IV. 事業戦略、設備投資
- V. 連結貸借対照表、通期計画、2014年3月期下期の動向

### 将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

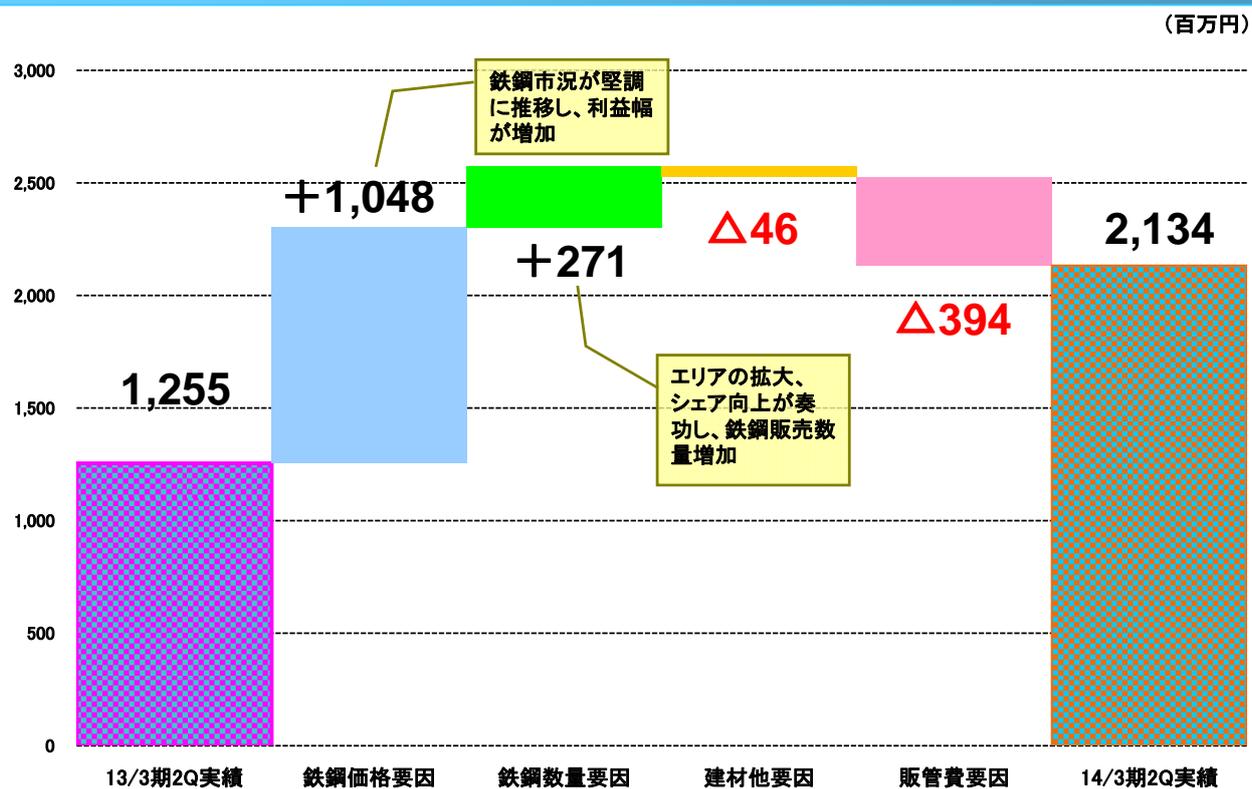
## 2014年3月期2Q総括① 前期および計画との差異

- 売上高はほぼ計画通りに推移したものの、利益面においては鉄鋼商品の利益率上昇により増益

	2013/3期 2Q実績	2014/3期 2Q計画	2014/3期 2Q実績	計画差異 (計画比)
売上高	69,492	76,864	76,634	△230 (△0.3%)
売上総利益	5,063	5,899	6,335	+436 (+7.4%)
営業利益	1,255	1,740	2,134	+394 (+22.6%)
経常利益	1,330	1,803	2,225	+422 (+23.4%)
当期純利益	786	1,102	1,387	+285 (+25.9%)

(百万円)

## 2014年3月期2Q総括② 営業利益/前年同期比変化要因



## 品種別販売状況(小野建単体)



		13/3 2Q実績	14/3 2Q計画	14/3 2Q実績	前年比	計画比	14/3下期計画	14/3 通期計画
鉄鋼 商品販売事業	鋼板類	18,330	19,901	19,149	+ 4.5%	△ 3.8%	21,131	40,280
	(販売数量)	271	293	278	+ 2.6%	△ 5.1%	298	576
	売上総利益	1,149	1,399	1,522	+ 32.5%	+ 8.8%	1,563	3,085
	利益率	6.3	7.0	7.9	+ 1.6P	+ 0.9P	7.4	7.7
	条鋼類	19,171	24,434	25,513	+ 33.1%	+ 4.4%	27,124	52,637
	(販売数量)	239	304	297	+ 24.3%	△ 2.3%	324	621
	売上総利益	1,674	2,474	2,572	+ 53.6%	+ 4.0%	2,606	5,178
	利益率	8.7	10.1	10.1	+ 1.4P	± 0P	9.6	9.8
	丸鋼類	10,809	11,910	12,116	+ 12.1%	+ 1.7%	12,993	25,109
	(販売数量)	173	192	192	+ 11.0%	+ 0%	205	397
	売上総利益	460	587	597	+ 29.8%	+ 1.7%	617	1,214
	利益率	4.3	4.9	4.9	+ 0.6P	± 0P	4.7	4.8
小計	売上高	48,310	56,245	56,778	+ 17.5%	+ 0.9%	61,248	118,026
	(販売数量)	683	789	767	+12.3%	△ 2.8%	827	1,594
	売上総利益	3,283	4,460	4,691	+ 42.9%	+ 5.2%	4,786	9,477
	利益率	6.8	7.9	8.3	+ 1.5P	+ 0.4P	7.8	8.0

※2Q計画は5/15当初計画、通期計画は11/6業績修正時のもの



## 品種別販売状況(小野建単体)



		13/3 2Q実績	14/3 2Q計画	14/3 2Q実績	前年比	計画比	14/3下期計画	14/3 通期計画
建材商品 販売事業	建設機材商品	5,770	6,113	5,756	△ 0.2%	△ 5.8%	7,111	12,867
	売上総利益	267	284	276	+ 3.4%	△ 2.8%	337	613
	利益率	4.6	4.6	4.8	+ 0.2P	+ 0.2P	4.7	4.8
工事請負 事業	建設機材工事	8,347	8,970	7,780	△ 6.8%	△ 13.3%	12,753	20,533
	売上総利益	523	472	498	△ 4.8%	+ 5.5%	620	1,118
	利益率	6.3	5.3	6.4	+ 0.1P	+ 1.1P	4.9	5.4
賃貸等 不動産 事業	その他事業収入	366	362	362	△ 1.1%	+ 0%	331	693
	売上総利益	171	137	140	△ 18.1%	+ 2.2%	137	277
合計	売上高	62,793	71,690	70,676	+ 12.6%	△ 1.4%	81,443	152,119
	売上総利益	4,244	5,353	5,605	+ 32.1%	+ 4.7%	5,880	11,485

※2Q計画は5/15当初計画、通期計画は11/6業績修正時のもの



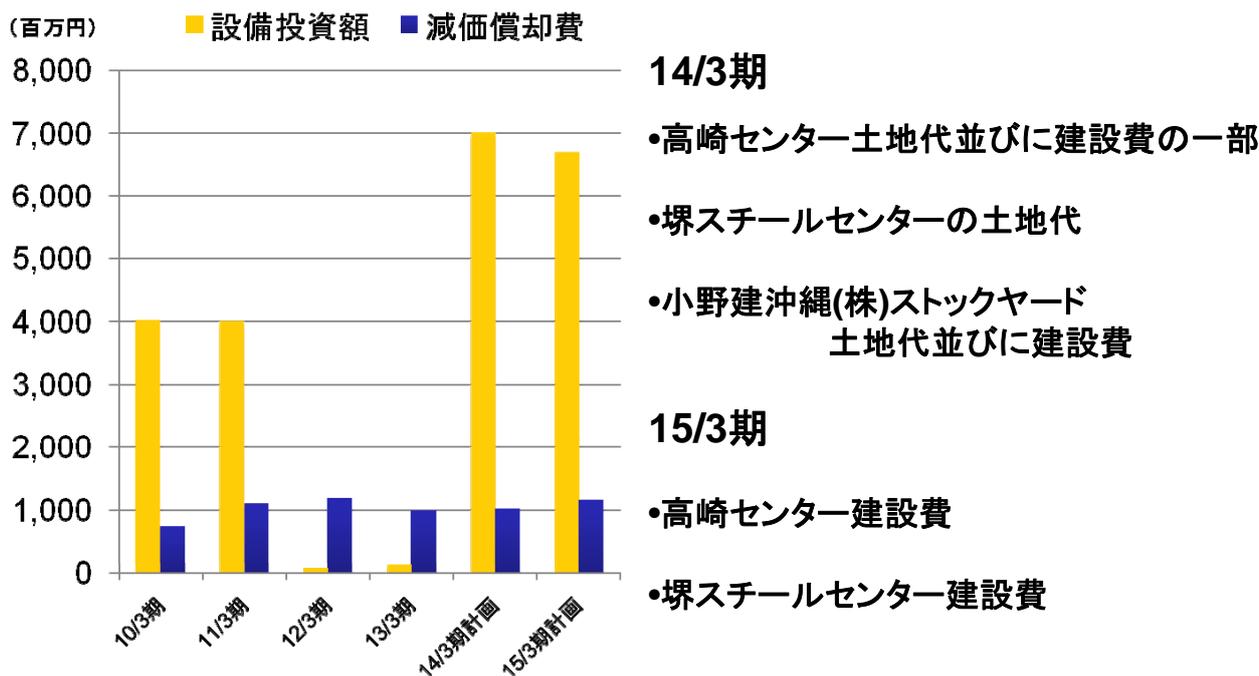
**今後の経営に関する当社の方針**

- 地域密着の営業展開
- 物流コストを削減するなど効率向上をはかり、競争力・利益体質の強化

**【短期戦略として】**

- **四国営業所開設(2012年9月)**
  - 四国に初となる営業所を開設  
四国エリアのシェア向上を目指す
  
- **福山営業所開設(2013年10月)**
  - 広島と大阪の間にある福山に営業所を開設  
岡山エリアのシェア向上を目指す

**通期設備投資計画**



### 【今後の戦略として】

- 東京支店高崎センター(2014年5月竣工予定)
  - 設備投資額 約30億円
  - 倉庫面積 6,580.00 m<sup>2</sup>
  - 既存顧客へのデリバリーの迅速化を図り、利便性を向上させる  
浦安センター、川崎センターと合わせて  
東日本エリアの物流基地としての役割を強化
- 大阪府堺市にある大型ストックヤードの拡大
  - 設備投資額 約100億円
  - 土地面積 42,800.75 m<sup>2</sup>
  - 中国、四国、近畿、東海、北陸など関西圏一円に商品を供給する中核拠点  
堺スチールセンターの拡大により西日本最大の物流拠点

- 沖縄のストックヤード増設(2014年3月竣工予定)
  - 設備投資額 約7億円
  - 倉庫面積 4,030.00m<sup>2</sup>
  - 中・北部地区の取引先へのサービス向上  
取引先のニーズに細かく応え、短納期を実現

## 連結貸借対照表



※各詳細項目は主要項目のみを記載しております (百万円)

	12/9実績	13/3実績	13/9実績
流動資産	65,665	68,727	69,246
現金及び預金	1,769	2,511	1,874
受取手形及び売掛金	47,356	52,132	49,111
商品及び製品、原材料及び貯蔵品	11,712	10,744	11,964
固定資産	31,113	30,739	30,797
有形固定資産	29,727	29,340	29,378
投資その他の資産	1,167	1,276	1,330
資産合計	96,778	99,466	100,044
流動負債	48,671	48,950	48,387
支払手形及び買掛金	31,027	35,040	28,981
短期借入金	13,069	11,200	14,200
一年以内返済予定長期借入	24	24	24
固定負債	1,310	1,315	1,412
長期借入金	28	16	4
退職給付引当金	481	503	571
負債合計	49,982	50,265	49,799
株主資本	46,622	48,844	49,859
資本金	3,780	3,780	3,780
純資産合計	46,796	49,200	50,244
負債・純資産合計	96,778	99,466	100,044



11

## 2014年3月期 通期計画の概要



・前年と比べて、増収増益を計画

(百万円)

	2013/3期 実績	2014/3期 当初計画	2014/3期 計画(11/6)	前年差異	前年比
売上高	149,998	162,425	162,903	+ 12,905	+ 8.6%
売上原価	138,584	149,724	150,115	+ 11,531	+ 8.3%
売上総利益	11,413	12,701	12,788	+ 1,375	+ 12.0%
販売費及び一般管理費	8,255	8,418	8,407	+ 152	+ 1.8%
営業利益	3,157	4,283	4,381	+ 1,224	+ 38.8%
営業外収益	281	240	242	△ 39	△ 13.8%
営業外費用	79	73	72	△ 7	△ 8.9%
経常利益	3,359	4,450	4,551	+ 1,192	+ 35.5%
特別利益	30	—	—	—	—
特別損失	95	6	6	—	—
税引前当期純利益	3,294	4,444	4,545	+ 1,251	+ 38.0%
法人税・住民税及び事業税	21	1,707	1,746	+ 1,725	—
当期純利益	3,254	2,718	2,780	△ 474	△ 14.6%



12

• 鉄鋼市況の動向

- メーカー主導の中、上昇傾向が継続
- 円安による原材料の高騰並びに電力料金の値上げなども市況の上昇に影響

• 需要の動向

- 公共、民間共に需要の増加傾向が継続
- 消費税増税前の駆け込みも需要を後押し
- 来期以降も民間設備投資は増加する見込であるが、メーカー生産能力並びに加工(ファブ、鋼板加工業者など)能力の問題から供給不足、人的施工能力不足から工期の遅延が懸念
- 物流面(トラック等)の不足、及び物流費の高騰が危惧